

【古寺地区】

「人・農地プラン」第1回地域懇談会概要

■ 開催日時等 令和3年12月6日 午後7時から 古寺公民館

■ 参加者数 21人

■ 概要

- 1 「人・農地プラン」及びアンケート結果の説明
- 2 ワーキング・グループ（3班）による討議

◆地域の課題

担い手

- 小規模農家が多い。
- 農業でサラリーマンは休めない。
- 後継者がいない、後継者がいても、サラリーマンの方がよい。
- 人手の減少と不足
- 自作者だけでなく受託者の高齢化と体力の衰え
- 当地区だけでの集落営農は困難
- JAが農業をする。
- 農作業は汚れ仕事で嫌われる。

農地・水

- 内水氾濫している。
- 吉野川分水の流入量が増えている。
- 区画整理による営農
- 面積は小さく、農地の大規模化推進による効率化
- ほ場整備する資金
- 農水管理と除草が大変
- 大型機械が必要
- 機械化による労働の軽減
- 農機具の維持管理が困難
- 耕作放棄地の管理システム
- 体力的に耕作地の維持がやっと

営農

- 農家で米価を決められず安い。
- 農業機械及び農薬や肥料など農業資材等が高く、生産コストが嵩む。
- 上記2点から採算性の悪化による収益減
- 農業機械は老朽化するが農業機械が高額すぎる。
- 農業機械等のリース
- 女性ができるスマート農業
- 新住民に気を遣い、これまでの農法ができない。

環境

- 新住民とコミュニケーション不足

その他

- 生産米価への国庫補助
- 米価の安定政策
- 米の輸出強化
- 耕作者への支援

◆現状と将来の農業者等

現 状

- 自作（高齢者）
- 親類（義弟）
- 委託

将 来

- 子供
- A氏
- リーダーの育成
- 集落営農や安心して預けられる農業ファーム
- 賃貸借での株式会社による農業経営
- 国営、町営、農協
- 現状どおりの委託又は委託先を探す。
- リモート等による機械耕作
- 荒れ地になる。
- 将来のことは思いつかない、不明
- 次の耕作者はいない。
- 売る。
- 特区を拡げる。